

パリアン通信

発行：グループパリアン

東京都墨田区両国 3-19-5 外両国ビル4F

電話(03)5669-8302

パリアンは今どこに存在し、どこに向かおうとしているのか



医療法人パリアン理事長 川越 厚

2012年も蓋を開け、気づけば早や4月。早いですね。

年度の変わり目に多くのひとの行き来があるのは世の常ですが、慣れ親しんだ人が去っていくさみしさと、同時に新しいひとに巡り合うという喜びもあります。去りゆく職員にはこれまでの働きを感謝するとともに、新しく入ってくるスタッフにはこれまで私たちが築いてきたものを良い方向に向かって引き継いでいただきたいと思います。

ところで、医療法人パリアンの現状と未来はどうなっているのでしょうか。

パリアンの創立は2000年6月ですが、創立にあたって私はその理念とともに、3つの目標を掲げました。理念とは、「患者さんの居宅でホスピスケアを提供すること」、つまりパリアンのMissionは在宅ホスピスケアの実践です。この理念と関連した3つの目標とは第一に量の拡大を図ること、つまり一人でも多くの患者にホスピスケアを届けることです。第二に掲げた目標は時代の要請に見合ったサービスを提供すること、そして第三は地域、社会を変えていく、と言うことです。

第一目標の「量の確保」については、昨年実績で180超のがん在宅死（在宅死率97%）を実現しこれは過去数年間の実績でもありますので、ほぼ目標達成と言ってよいでしょう。ただこれは最終目的を達成したという意味ではありません。現状のスタッフで質を担保しつつ、どれだけ多くの患者さんをケアできるか、というチャレンジはいまだ継続しているわけで、今後の課題と考えています。そのためには組織の改善を模索しなければなりませんし、なによりも新たなパラダイムの変換を視野に入れた改革に取り組まなければなりません。

私たちの組織の大きな特徴は、医師と看護師とが一体となって医療（広い意味でケアを含む）を提供していることです。このような形は国が推進してきた方向とは異なります（公には否定されることはないと思いますが、介護保険の仕組みを考えるとこう言う結論になります）が、このような一体型の医療提供は病院で行われる医療と仕組みは全く同じです。特に私たちが関わる患者さんの平均年齢は70歳（非がんの方は平均85歳です）と若く、ケア開始後2か月弱で全員死亡と言う形で亡くなりますので、病棟で言えば急性期病棟で行われる医療に相当します。普段から医師と看護師の息がぴったりとあっていないと、質の高いケアを迅速かつ効率よく届けることは不可能です。

ただし問題は病棟と在宅とでは、根本的に違う点があることです。それは在宅ケアの場合、医

パリアンの3つの目標

- 1.量の拡大を図ること
- 2.時代の要請に見合ったサービスの提供
- 3.地域・社会を変えること

療だけで患者さんのケアを論じることができないということです。ケアの質を向上させ効率的にサービス提供しようとするれば、どうしても医療と福祉、特にケアにあたるヘルパーと看護師の一体化を考えなければなりません。

私たちの突き付けられた新しいチャレンジは、看護師とヘルパーとが密接に協働した形でケアを提供するためにはどうすればよいか、という課題へいかに答えていくかということです。その答えを私自身は、看護主導の一体化したヘルパーサービスの提供と考えています。具体的には、法人内にヘルパーサービスを起こし、看護師と密接な連携を取りながら、質の高いケアを効率よく提供することを目指します。

幸いなことに、パリアンには世に誇れるボランティア組織が既に存在しています。看護師、ヘルパー、ボランティア組織が一体化してサービスを提供するようになれば、より多くの患者さんに質の高いホスピスケアを届けることが可能になります。それだけではなく、負担の多いナースの仕事を軽減することもできるはずです。

問題は、この目標をクリアするためにどのような新しい仕組みを作らなければならないか、ということです。それと同時に、今までの業務の見直しがナースには当然求められますし、それはそもそもホスピスケアの中で看護師は何をする存在なのか、の答えを用意しなければなりません。

以上、ヘルパーステーションの開設にまつわる諸問題を提起いたしました。第二、第三の目標に関しては、次回のパリアン通信で論じる予定です。

各グループが去年度の成果と今年度の抱負を報告

第1回ボランティアの集い、4月14日開かれる

4月14日(土)に第1回ボランティアの集いが開催されました。ボランティアコーディネーは川越博美先生から、新田尋美(にったひろみ)さんに引き継がれました。新旧のコーディネータの挨拶に引き続き、川越厚先生から“パリアンの理念と今後の方向性(1ページ参照)”についての挨拶がありました。それから、各グループから昨年度の活動報告及び今年度活動計画について発表がありました。今回は、各グループのボランティアリーダーが報告して下さった、活動の様子や今年度の予定を皆様と共有したいと思います。私自身、具体的な活動の様子やご意見を聞くことで、色々と勉強になりました。ボランティアリーダーが発表して下さった中で、印象に残った内容や心に残った言葉を記載します。

【訪問ボランティアからの報告】

「もっと訪問に行きたい」

数か月前から、ボランティア通信(パリアン通信に名称変更)に『こんなことあんなこと』という記事を連載しています。患者さんのご自宅に訪問した際に経験した、ちょっとした患者さんとの会話や出来事などを、皆さんにお伝えし

ボランティアを通して、どんなことを考えたり感じているのか知ってもらいたいと思ったからです。そしてこれを読んで、訪問ボランティアに参加したいと思う人が増えてくれたらうれし



ボランティアの集いに集まった会員の皆さん
と新田・新ボランティアコーディネーター

いです。

最近、訪問できる患者さんの数が少なく、あまり訪問ボランティアへの依頼がないことが気になっています。ボランティアは、「訪問に行きたい」という気持ちを持って登録しているので、もう少し依頼数が増えてほしいと思っています。

【デイホスピスからの報告】

私達が患者さんに支えられたり、励まされたり

デイホスピスは、訪問ボランティアと比較して、ボランティアの裁量に任されている部分が多く、毎回の食事の献立などもボランティアが決めています。

デイホスピスの様子や雰囲気は毎回違っており、同じことが繰り返されることはありません。ある時は、冗談を言いながらワイワイと賑やかに時を過ごします。ある時は、病気や死について話します。どんな時でも私たちボランティアは、患者さんに良い時間を過ごしていただけるように、心を込めて活動に励んでいます。でも実は、自分たちが患者さんから支えられ、励まされているのだと気付かされます。私たちにとって、デイホスピスでの時間は、学ぶことが多く愛おしい時間となっています。

【命日カードからの報告】

ご遺族の方々を思いながら一文字一文字心をこめて

偶数月の第4木曜日、午前中に活動をしています。平日の午前中ということもあり参加人数が多くありません。近年、パリアンがサポートする患者様の数が増えるに伴い、命日カードを書く枚数が大変多くなっています。現在のボランティアだけでは、そろそろ限界かなと思っていますので、ぜひ参加してくださる方が増えればうれしいです。

静かにカードを書くことで清らかな気持ちになり瞑想しているような心地になることがあります。患者さんやご家族に直接お会いしたことはありませんが、その方々を思いながら一文字一文字心を込めて葉書を書く時間は、とても大切な一時です。

また、命日カードを見てお返事を下さる方が増えています。お返事を拝見すると、命日カードをきっかけに故人を思い出されている様子が伝わってきて、お役に立てているのだと嬉しく思います。

【事務ボランティアからの報告】

生きた情報を発信して、親しまれるパリアン通信に

ボランティア通信(今後、パリアン通信)を月1回発行しています。今までは、ボランティア同士の交流や情報交換を目的に情報を発信していましたが、今後は医師や看護師に関する記事も掲載し、パリアンの組織全体の通信としてやっていくことになりました。

これからも、ただ既存の情報をお知らせするだけでなく、‘どんな気持ちでボランティアが活動しているのか’、‘活動からどんなことを感じ学んだか’など、生きた情報を発信していきたいと思っています。皆様からの記事も随時募集しておりますので、御協力よろしくお願ひ致します。

【メモルの集いからの報告】

少人数制でご遺族の気持ちが聞けるように

昨年度から、活動形態が変わりました。以前は、年に一回、ご遺族の方をお招きし、毎回50人～60人くらいの方が出席して下さいました。これだけ多くの方がいらっしゃると、残念ながらゆっくりお一人お一人と交流することはできませんでした。そこで昨年度からは、年5回開催し、1回の参加人数に制限を設けました。

以前よりも、お一人お一人からお話しを聞くことができるようになり、ご家族を在宅で看取ることの大変さや、その中でパリアンの存在が如何に心の支えになったかといったお話しを聞くことができました。私たちボランティアは、パリアンのスタッフが患者さんをどのようにサポートしているのかについて詳細は知りません。メモルの集いでご遺族からお話し伺い、「パリアンってこんなにすごい所なのか」と再認識することができました。その素晴らしいパリアンで、自分もチームの一員として活動できていることを誇らしくそして嬉しく思っています。

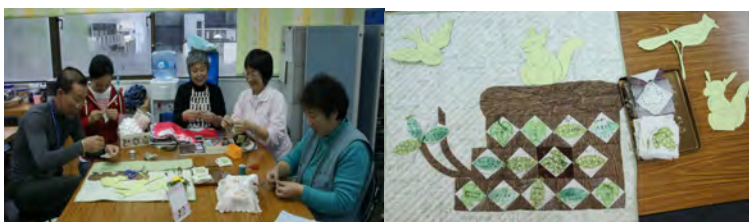
今年度はどのような形態で実施するか、担当者会を開催して決定したいと思っています。

【手作りボランティアからの報告】

患者さんへのギフトなど作成、一緒に活動しませんか(募集中)

メモルの集いのメモリアルツリーなどのタペストリーやクリスマス会など患者さんやご遺族のギフトを手作りしています。昨年の作品は「ファスナーのコイン入れ」「クリスマス・ブローチ」

メンバーが足りないのので、どなたか一緒に活動しませんか。



応援者と一緒に作業する
手作りボランティア

作成中のタペストリーに取り付ける木の葉や動物達

(事務ボランティア 鏑木)



はじめまして。4月よりソーシャルワーカーとしてパリアンに入職し、ボランティアコーディネーターをすることになりました、新田 尋美(にした ひろみ)と申します。

前職は、名古屋市にある在宅クリニックでソーシャルワーカーとして勤務しておりました。以前より、パリアンの終末期医療に対する考え方や診察・看護体制を名古屋の地から見つめながら過ごしておりました。そしてこの度、スタッフの一員として参加することになりました。

皆さんとともに成長したい

新ボランティアコーディネーターの
新田尋美(にしたひろみ)さん

さて、近年では施設ホスピスにおけるボランティアの存在が患者さん・ご家族の皆さんを癒す重要な役割を果たしていることが徐々に認知されつつあります。わたくし自身もそんなボランティアさんに関わることが多々ありましたが、とりわけ、パリアンでの“在宅ホスピス”のボランティアの皆さんの活躍をととてもまぶしく感じておりました。そんな思いを胸に秘め、皆さんにお会いしたく名古屋からやってきました。

皆さんの“在宅ホスピスボランティア”の活動の動機とは何でしょうか？ 他者のため？ 社会のため？ 自己実現のため？ 色々な考えや動機があることと思います。皆さんのそんな思いを伺いながら、“在宅ホスピスボランティア”を皆さんとともに考え、ともに成長したいと考えております。どうか、宜しくお願いいたします。

訪問ボランティア

～ 記念すべき一人目 ～

あんなことこんなこと

私が初めてボランティアとして訪問した患者さんのMさん。

ほとんど寝たきりで、お話もスムーズには出来ない方でした。

看護師さんとの同行とは言え、初めての訪問で自分に何が出来るのか

看護師さんが「今日は浣腸しましょうね」と言って準備をし始め、私はただMさんのそばに座っているだけでした。Mさんは浣腸が辛かったようで顔をしかめ始めました。

すると、急にそばにいた私の手をギュッと握ってきました。とても力強く、しがみつくように…… たったこれだけのことだけですが、その時の私にはとても嬉しく感動した出来事でした。こんな何も出来ない私でも、今、Mさんからは必要とされているのだ！と。Mさんとの出会いが私のボランティアへの道の始まりでした。

「記念すべき一人目」の大切な患者さんです。

☆K・Y☆

「ボランティア」初めまして、こんにちは

山岸 佳代子

平成24年4月14日に開催された「2012年度第一回ボランティアの集い」に参加し、その場で、パリアンボランティアに登録をしました。

そもそも「パリアン」の存在を知ったのは、全くの偶然でした。たまたま墨田区役所に置いてあったチラシを見て、平成23年11月5日(土)「日本対がん協会会長 元国立がんセンター総長 垣添 忠生氏」の講演会があると知り、何となく心惹かれて行くことにしました。

そこで、その講演会の企画・運営「あこも」と「パリアン」の存在を知り、川越クリニックが行っている「在宅ホスピス・緩和ケア」というものがあると初めて知りました。全くの偶然から、「パリアン」の活動を知ったものの、最初はそこで自分が何かをしたいとも思っていませんでした。けれども、年末に「パリアン通信」が届き、たまたま時間があつたので平成24年1月21日の「集い」にちょっと緊張しながら参加してみました。

そこでのお話で、川越先生が私の自宅近所の病院「賛育会病院」で院長をなさっていたことを知りました。この病院は昔から家族そろってお世話になっている病院です。しかも、「パリアン」がある場所は両国で、自宅から自転車で行ける場所ではないですか！勝手な思い込みですが、何か私を引き寄せているのかな？と感じました。

しかし、ボランティアは全く初めての経験です。私に一体、何が出来るのか？「フルタイムの仕事も持っているし、子供も三人いるし、何かと毎日が忙しい私に何が出来るというの？」あれこれと悩みました。けれどそんな私に「決して無理せず、気持ちも時間も負担にならない程度に、やれることをやって下さるだけでいいのよ」と川越博美先生が声を掛けて下さいました。博美先生の優しい言葉に背を押されるようにして、私はパリアンボランティアに登録をすることを決心しました。

パリアンの理念にも感銘を受けました。川越先生はじめ、看護師の方々、ヘルパーの方々、先輩ボランティアの方々、素晴らしい皆さまの中に入れていただき、私も何かのお手伝いが出来れば……と、まずは無理のない事務のボランティアをすることにしました。

ボランティアをするのは初めてのことです。初めてが「パリアン」で良かったと心から思います。

「さてさて、一体、私はどんなお手伝いが出来るの？」今、不安と緊張で胸が膨んでいます。やれることを精いっぱいやっていきたいと思っています。

「ボランティア」初めまして、こんにちは。

どうぞ皆さま、よろしくご指導お願いいたします。





おしらせ

第1回パリアンCUP、5月24日開催

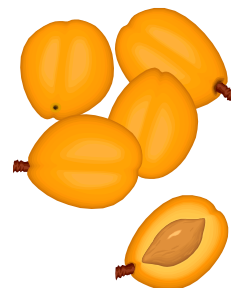
第1回パリアンCUPが下記のとおり開催されます。どうぞ、エントリーを。

- ・場 所：大原御宿ゴルフコース（千葉県いすみ市大原台 200）
- ・スタート時間：9：03（out3組/in4組）
- ・参加費：約8,000円（プレー代を含む、食事代は各自）
- ・申込み先：パリアン・西本（TEL 03-5669-8303）

5月のカンファレンス予定（場所：クリニック川越・訪問看護パリアン）

ボランティアの方々の出席をお待ちしています。

- ・公開定例カンファレンス 5月9日（水）18：30～
テーマ「墨田区における緩和ケアのこれからを考える」（仮）
- ・事例カンファレンス 5月18日（金）17：00～
- ・デスクカンファレンス 5月25日（金）17：00～

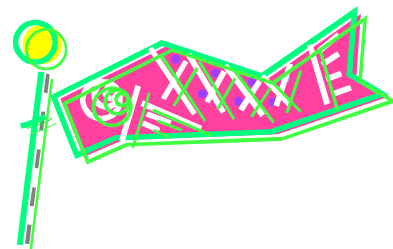


6月頃に介護事業所を開設します

長くボランティアをしてくださった海江田さんが介護事業所の責任者です。
ヘルパーとして登録して下さる方がありましたら、一緒に活動してください。

5月のボランティア活動予定

- ・メモルの集いのミーティング：5月12日（土）午前10時30分
- ・訪問ボランティアのミーティング日：5月11日（金）午後2時30分～
- ・デイホスピスボランティア：5月11日、18日、25日
- ・手作りボランティア：5月8日（火）午後1時～午後3時
- ・事務ボランティア：5月19日（土）午後1時～



編 集 後 記

ようやく春らしい陽気になりましたね。

またまた長野の話になりますが、私が在住していた飯山市では、毎年ゴールデンウィークに「菜の花祭り」が開催されます。千曲川沿いの土手一面が菜の花畑になり本当に素晴らしいです。市をあげての大きなお祭りで、この時期ばかりは交通渋滞になり、観光客でにぎわいます。

飯山市の菜の花は、漬物になる「野沢菜」なのです。野沢菜は9月に種をまき11月に収穫をしますが、花を咲かせるために収穫をせず春までそのままにします。雪の下で葉っぱは枯れて、雪が



消えると新しい葉っぱが生え茎（とう）が伸び花が咲きます。花を咲かせる前に収穫したものを「とう立ち菜」といい、お浸しなどにして食します。

雪国の春はあまり農産物がないのではないと思われませんが、先ほどご紹介したとう立ち菜のほかにこの時期限定のおいしい物があります。それは山菜です。山菜はほんの一時しか食べられず貴重です。ふきのとう、わらび、ぜんまい、ごごみ、たらの芽、ウド・・・。

長野に移住したばかりのころはなぜこんなに苦いものを好んで食べるのだろうと思っていました。しかし、旬の物として食べるだけではなくきちんとした理由があることを後々知りました。山菜には、冬の間体内に溜まった毒素を排出するためにあくの強い、山菜を食べるとのことです。

その季節ごとに収穫できる野菜、食べる物には理由があるのだと改めて感じました。

（事務ボランティア 生方）